

御殿場

2009
No.185号

4

十字の園

(題字 鈴木生二)

発行／総合福祉施設
御殿場十字の園
施設長 上野 貢一

〒412-0023 御殿場市深沢1465の1

TEL 0550-83-1999

FAX 0550-82-5189

<http://www.jyuji.ne.jp>

e-mail : info@g.jyuji.or.jp

印刷／岳麓印刷株式会社

(聖句) 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマ12:15)



4/9 平和公園でお花見 たかねデイサービスの皆さん

イルド

理事長 平 井 章

今年の聖句に「人間にはできないことも神にはできる」(ルカ一八章二七節)を選びました。昨年の米国に端を発した世界不況の中では、世界中が不安のどん底にいます。

浜松には「やらまいか」という言葉があります。浜松生まれの聖隷福祉事業団の創始者である長谷川保は、どんな困難な時でも「それが神の命令であれば、やらなきゃならんことは、やらなきゃならん」と言って行動したといいます。信仰の力の大きさです。

米国ではオバマが新大統領に就任しました。オバマ語録の「Yes we can」(私たちにはできる)に世界の期待が寄せられます。「やらまいか」精神に通じます。ケネディの「国が自分のために何をしてくれるかと訊くのではなく、自分が国のために何をできるのか自問しよう。」の大統領就任演説も有名です。

「神にはできる」と神を信頼する信仰によって道が開かれると、私には思えてきます。

ボランティアと施設の役割

御殿場十字の園 施設長 上野 貢一

ボランティアは、年間で毎年約二五〇〇人来て下さっています。平成二十年度は、二

八三〇人のボランティアが来て下さいました。年度末に、毎年懇談会を開いていますが、今年三月七日に行いました。

個人ボランティア七名、十二団体の代表者三十四名、計四十一名の参加がありました。介護長より「感謝を込めて」という題で話をさせて頂き、その後四グループに分かれて、職員も加わり意見交換を行いました。都合で来られない個人や団体の方もいましたが、ほぼ開設当時から三十年以上も来て下さっている団体もあります。「長く行う秘訣はなんですか。」「無理をしないこと。楽しくやること。」等の話がありました。感謝です。

懇談の中で、職員が気持ちよく挨拶をして下さる。しかし、褒めて下さることばかりでなく、ご指摘もあり、謙虚に受

け止めて改善をして行きたいと思います。

前日六日に、御殿場市社会福祉協議会の地域福祉活動計画（平成十六年度から平成二十年まで）の活動報告会があり出席しました。報告の中

で、補助金が厳しい。寄付が集まらなくなっている。団塊の世代のボランティアが少ない等の報告がありました。特に男性のボランティアが少ないということ。団塊の世代の人たちは、ちょうど還暦を迎える年代で、あの学生運動に燃えた年代です。疲れているのだろうか。ボランティアとは、広辞苑には、「義勇兵の意）志願者。奉仕者。自ら進んで社会事業などに無償で参加をする人。」と書かれています。テレビを観ていると、団塊の世代で、ヨットで太平洋を渡った人が映し出されています。登山は、若者たちよりも団塊の世代が多い

市民公開講座

平成二十年度 市民公開講座



平成二十一年二月十二日(木)に市民公開講座が開催されました。地域の方々に介護に関する情報を発信することを目的とした本講座も三回目を迎えることができました。今回のテーマは、高齢者が高齢者を介護するという「老老介護」に着目し、介護する側が体を傷めず、介護される側にも優しい介護術として、身体技法の実践研究者である、甲野善紀・陽紀、両講師をお招き致しました。

甲野氏の追求する身体操作術は、スポーツ、演劇、介護医療といった様々な分野で取り入れられており、実際に多くの著名人が指導を受けてい

らっしゃいます。又、数多くのメディアにも紹介されていることもあり、受付開始当日に定員を満たしてしまう程の大きな反響をいただくことができました。

講義は、実際に多くの方々に体験していただけるよう、いくつかのグループに分けた実技講習形式で行いました。両講師が各グループを回り、参加者ひとりひとりに丁寧に指導して下さい、参加者の方々も熱心に両講師の指導に耳を傾けていらつしやいました。自分より体格の大きい方を余分な力を使わずに、簡単に動かすことができ、実際に体験された参加者の驚いた表情はとても印象的でした。

研修終了後のアンケートでも多くの方から、「有意義な時間を過ごせた。」「とても満足だった。」「早速、自宅で試してみたい。」というようなお褒めの言葉をいただき、今

回の市民公開講座も大成功を収めることができたのではないかと思います。

今後も、地域の皆様方に介護に関する情報を数多く発信し続けることができるよう、又、高齢者や障害者を持った方が住みなれた地域で安心して暮らすことができるような地域社会を目指し、職員一同努めていきたいと考えております。

(高橋直輝)





不二聖心女子学院高等学校の皆さん

そうです。健康に気を付け、自分の好きなことを行っているのかも知れません。ボランティアが少ないと聞くと、阪神淡路大震災の時、大勢の若者達がボランティアとして全国から駆けつけたことや、中越地震でも大勢のボランティアが集ったことを思い出します。ボランティアがけっしてないわけではなく、ボランティアを必要とするところを結びつける働きがもっと必要なのかも知れません。地域福祉活動計画の報告会の中で、お金ではなくどう助け合いの精神が、地域に根付いて行くかだと話されていたことが印



富士社会教育センターの皆さん

象的でした。今、一〇〇年に一度という世界恐慌の中で、リストラや、派遣切りが行われています。その影響は、福祉の現場にも及び寄って来ています。静岡県では、この非常事態に対応すべく、不況・雇用対策の一環として「離職者介護現場体験事業」を実施します。静岡県老人福祉協議会を通して、施設でも、五月、六月に一回ずつ各二日間受け入れを行います。施設で出来ることをやらせていただこうと思っております。お互い様、目指すのは、「介護の文化の創造」です。

介護予防の口腔ケア

歯科衛生士 斉藤 里枝子

「それでは、お昼前のお口の体操におつき合ってください。」と、毎日デイサービスのフロアーでは、十一時半を目安に、担当職員・看護師・歯科衛生士による「口腔機能向上体操」が始まります。お口の体操が始まったのは、三年前です。厚生労働省のモデル事業に参加させていただきました。口腔への関心が高まりました。歯学博士の菊谷武先生をはじめ、米山武義先生・杉山総子歯科衛生士の指導の下、器質的口腔ケアとして食後の歯磨き指導、機能的口腔ケアとして食前の口腔体操を、一週間に一度、三ヶ月間実施しました。普段の生活では意識する事の少ない頬・口唇・舌を十分に力を込めて動かします。食事がスムーズに喉を通るように、唾液腺マッサージも行います。後半は、発声練習や季節の歌を唄って大きな声を出していただきます。最初は

とまどいも見られましたが、回を重ねていく度に声も出る様になり、笑顔で楽しく参加していただきました。歯磨きでは、「総入れ歯だからうがいはなし。夜洗剤につけるから昼間は入れっ放し。」などの状態でしたが、改めて入れ歯の磨き方や、入れ歯をはずした後の歯茎や頬の内側・舌を歯ブラシで磨くようにお伝えしました。三ヶ月後の成果として、口の働きをご理解いただき義歯作製に通院されたり、手を口に当てて会話していた方が、笑顔で周囲の方と話す様に明るく見受けられました。最初気になった口臭も消えてきました。モデル事業の結果を受け、平成十八年の介護保険改正で、介護予防という考え方が導入され、介護サービスの中心に「口腔機能の向上」も組み込まれる事となり、

デイサービスのプログラムに早々に取り入れていただき現在に至ります。ご指導いただいた先生方や杉山歯科衛生士は常に「加齢現象なる、口のおとろえ」を防ぐ事。人が人らしく、口が口らしくある為に、お手伝い出来るはず。」とお話くださいます。その心持ちを受け継ぎ、続けていきたいと思えます。



食のイベント

寿司パーティー

今年も「寿司パーティー」が開催されました。特養三階では二月二十五日、特養二階では三月四日に行われました。三月に行われた二階のパーティーを垣間見てみます。ひまわりユニットのホールを会場とし、各ユニットから利用者の方々に集まっていただき、皆で楽しく美味しく「お寿司」を食べました。

会場には大漁旗や寿司ネタをお品書きとして壁に貼り、音楽で雰囲気作りをしました。今年には普通食の方はもちろんのこと、普段刻み食やミキサー食の食事をされている方にもお寿司を楽しんでいただけた事です。委託業者の皆さんが研究して下さい、苦労して刻み食・ミキサー食の方のためのお寿司を創って下さいました。もちろん皆様よろこんで召し上がっていました。全員が『お寿司の味』を楽しみ事が出来ました。

お年寄りも職員も笑顔でお腹いっぱい食べていました。皆の楽しい思い出になってもらえれば幸いです。来年も同じような会が出来ますように…。

2F副主任 中野英和



召天者記念礼拝を行いました。

二〇〇八（平成二十）年度の召天者記念礼拝を二月十九日木曜日一〇〇〇より執り行い、五家族八名に出席していただきました。本年度は、二〇〇八年三月二日から二〇〇九年二月二日の間に十七名の方を送りました。召天された方の元気で最も輝いていたときの写真と、その傍らにお世話させていただいた職員からの一言を添えて、ベロニカホールに設けた祭壇に並べさせていただきました。ご家族、施設で生活を共にした方々、そして職員が、生前の懐かしい思い出を共有する時を持たせていただきました。

私も施設職員は、ご家族と共に召天される場に立ち会う、つまり『看取り』をする事もあります。介護をする者は、ある意味共に生活する『家族』と言えます。その家族との別れはやはり辛いものであり、何度経験しても、けっして慣れる事はありません。BESTというものが見つからないことはわかっていますが

「この方にとつて良い介護ができたのであるうか？」



「もう少し何か出来る事はなかっただであらうか？」と自問自答するのですが答えは出てきません。

特別養護老人ホームは「終のすみ家」としての使命を持つております。アカデミー賞外国語映画賞を受賞した『おくりびと』ではありませんが、私たちが『送る』という使命を担わなければならない立場にあるわけです。その場に立ち会うご家族、そして最期を迎えられる御本人に、出来る限りのお手伝いをしていく事が出来ればという思いを、召天者記念礼拝は、私たちに再認識させてくれます。

施設相談員 杉崎由宗

ケアハウス 御殿場アドナイ館

入居者の様子

三月六日(金)

「お寿司パーティー」

今回、食のイベントとして、「お寿司パーティー」を計画しました。事前に、利用者にお寿司のネタと聞いて、どのような物を希望されるか聞いたところ、「ほたて・あなご・イクラ・いか・まぐろ（中とろ・赤身）・えび・うに・甘えび・鯛・玉子焼・赤貝・ネギとろ・サーモン（しゃけ）・巻物（しそ巻き・かつば巻き）」の要望が有りました。当日、一人前（個人盛り）に用意されていた内容が「玉子焼」と「いなり」が変わった以外、全て希望されたネタが入っており、見た目もとても鮮やかでした。利用者の感想は①大々満足、みんな美味しい。②中落ち（ネギとろ）がとても美味しかった。③ネタが新しくなった等、毎月のようにやってもらいたいくらい。と好評でした。

(田内)



《ボランティア紹介》

入園者の皆さんとの短歌づくり

しきなみ短歌 森本公子

四年前、十字の園で入園者と一緒に、短歌づくりをして欲しいとの要望がありました。二月月に一度何う事になり、三島に在住の坂井則子短歌講師と、しきなみ短歌会員二、三人と共に始めました。入園者の皆さんは昔の事、亡くなったお父さん・お母さんの事、小さい時の遊び等、聞きますと止めどもなく話して下さいます。自分でそれを短歌にする方もおられますが、自由な方には話された事を私達が纏めるお手伝いをして出来た短歌を、自分の好きな曲で歌い、それを皆で大きな声を出して歌った時、一人一人が感動して下さいました。又後日に色紙



や短冊に書いて渡しやすと、とても喜んで下さり、私達も続けていく勇気を頂きました。これからも御自分の思いを文字に表し、しっかりと心を見詰めて、少しでも軽やかに、楽しく生きて下さいます事を願いつつ、短歌のボランティアを続けさせて頂きます。どうぞ宜しくお願い致します。

逆デイ おにぎり作りパーティー

二月のとある寒い日、逆デイでは寄付して頂いたお米を持ち寄っておにぎりを作りました。今でこそIH炊飯器など電気式炊飯器、あるいはガスによる炊飯器が当たり前の世の中ですが、この日おにぎり作りに参加された皆さんは『おくどさん(かまど)』に羽釜を使って毎日毎日ご飯炊きをして続けて来た、言うならば『ご飯炊きのプロ中のプロ』なわけです。さすがに今日は羽釜でご飯を炊いてというわけにもいきませんが、炊飯器を使いましたが、しっかりと炊きあがったご飯から立ち上る湯気の中でおにぎりを作っているその後ろ姿には、何十年の間「はじめちよるちよる、中ぱっぱ」とご飯を炊き続けてきた歴史の重さを感じま



した。『神さん(かみさん)より偉いおかみさん』であり、まごうことなき『日本のおっかさん』でありました。私たち職員に「ほら食べんしゃい！」と渡してくれた『おっかさんのおにぎり』はホッカホカでおいしくて心もおなかも暖まり、とてもよいひとときを頂きました。ちどり 高木直也

苦情

平成二十年度に寄せられた苦情件数は施設、在宅サービス、ケアハウス合わせて二十八件ありました。寄せられた苦情は、月一回の苦情解決検討委員会での報告、検討や十月と三月の年二回は第三者委員会へ報告し、助言を頂いています。

当施設、事業所の提供する諸サービスについて職員一同、皆様にご満足いただけるよう日々努力を重ねております。そこで、諸サービスに対するご不満や、改善、提案等を望むことがございましたら、ご遠慮なくお申出ください。(滝口史美)

サービス種別	担当部署	担当者
介護老人福祉施設・寮棟部門	介護長	杓間 昭子
介護老人福祉施設・2階寮棟	施設相談員	滝口 史美
介護老人福祉施設・3階寮棟	施設相談員	猪越 貴史
居宅介護支援事業所	主任	井部 里美
ヘルパーステーション	主任	岩瀬美恵子
短期入所生活介護事業所	短期入所相談員	伊沢 香
御殿場通所介護センター	主任	神戸由紀子
ふじざくら通所介護センター	主任	高橋 直輝
たかね通所介護センター	副主任	深沢 直子
御殿場アドナイ館(ケアハウス)	主任	田内 博夫
障害者地域活動支援センター相談事業	主任	武藤 繁生
地域包括支援センター	主任	杉山 克代
医療・看護部門	主任	杉山 潔
総務部門	事務長	宮島 克利

献金下さった方々

敬称は略させていただきます

12月分

社団法人日本善行会御殿場支部、鈴木艶子、沼津大岡教会、松島由美子、杉崎清司、伊勢田きぬ、丸木進、鈴木啓一、マイティー・ガレッジ、小林旬子、武藤きくみ、青井認、上野忠昭、千田恵子、(有)ロッキイワタ、佐藤正明、藤池久子、上野貢一、矢澤信明、(有)ヘルス、杉山薬局、弦巻教会、堀井多み子、中島善子、奥田昭弘、嶋崎紀代子、池田秀行、御殿場教会、岩田君治、平岡眞、久保赴、御殿場遊技場組合、玉川聖学院、不二聖心女子学院

御殿場十字の園支える会

12月分	35件	630,000円
1月分	15件	152,500円
2月分	15件	177,814円

4～2月分 累計
144件 2,151,980円

ご献金、ご献品心より感謝申し上げます。

1月分

真中治俊、不二聖心女子学院、香貫教会、藤枝教会、砂町教会、米原一郎、碑文谷教会、横山眞人、富士教会、捜真女学校同窓会・PTA、三島教会、岩本教会、女子学院宗教学部、羊之舎教会、仙川教会

2月分

勝又敬子、鈴木穎、沼津教会、竹島春夫、聖ヶ丘教会、渋谷教会、松戸教会、捜真女学校高等学部・中学部、岩槻教会、岩田君治、鹿嶋節、宮川みちる

協力ボランティア

12月

みくりや友の会、高橋文夫、杉山和子、厚生年金婦人部、隆生会書道、御殿場市赤十字

奉仕団、市婦連福祉グループ、市野はつ、シャマイム池谷、不二聖心

高校生、木洩れ日朗読の会、勝又静江、芹澤菊枝、高村恵子、野菊寮、鈴の会、御殿場教会、琴音会、勝又町子、中里京子、白倉たえ子、井村弘子、玉穂婦人会、太極拳カツマタ、近岡

友子、加藤正代、土屋明子、弥生会、若富士会、三島ヘア

デザインー、動物ふれあい、はざまの会、中村孝信、菅原幸和、若葉会、なでしこ会、さわやか部会、高根婦人会OB会、高根中学生

1月

みくりや友の会、風張智、厚生年金婦人部、御殿場市赤十字奉仕団、鈴の会、AKI美容室、木洩れ日朗読の会、野菊寮、市野はつ、芹澤菊枝、勝又静江、隆生会書道、琴音会、井上愛子他二名、しきな

2月

み短歌の会、太極拳カツマタ、なでしこ会、勝又町子、御殿場教会、近岡友子、中里京子、菅原幸和、高村恵子、高橋文夫、加藤正代、土屋明子、高根婦人会OB会、さわやか部会、高根中学生

みくりや友の会、長田、厚生年金婦人部、隆生会書道、御殿場市赤十字奉仕団、市婦連福祉グループ、市野はつ、木洩れ日朗読の会、勝又静江、芹澤菊枝、AKI美容室、なでしこ会、太極拳カツマタ、高橋文夫、高村恵子、野菊寮、

あとがき

春は「お花見」という『宴』が心を浮き立たせます。漢字の『宴』は、家を表す『宀』冠（かんむり）に『日』に『女』という文字から、屋敷の庭に毛氈を敷き、庭の木々の枝の間から差し込む柔らかい日の光を浴びながら、縁側に座る女御から料理・酒を受けつつ、心を通わせる者と満ち足りた時を過ごすということを表しています。映画監督市川崑唯一の劇場未公開作品・幻の名作と呼ばれる『その木戸を通って』（一九九五年、フジテレビ制作）の中に、幽玄閑寂たる『宴』を見る事が出来ます。春風と共にこの機関誌をお手元におとどけいたします。

(やまもと)

お知らせ

開園以来、皆様に「御殿場十字の園支える会」として、御殿場十字の園をお支え頂いておりますが、広報誌発行等、施設職員が行なっております。4月1日より、現実に即した形で処理をさせていただきます。今後共、宜しく願いいたします。ご連絡下されば振替用紙をお送りいたします。

—新しい振替口座—

郵便振替口座

口座番号 00870-9-190162

口座名称 社会福祉法人十字の園
御殿場十字の園